



本康歯科ニュース



世界中のどの歯医者に行くよりも、この歯医者に来て良かった！！と思ってもらえる歯科医院めざして！

虫歯も歯周病も一生治らない？

『虫歯も歯周病も治らない病気』というのは本当です。発症して、治療をして症状が治まっても一生、完治はしません。『歯に穴が開いていないから虫歯じゃない』と聞いていませんか。あるいは、歯周病について、『歯茎の腫れがないから歯周病じゃない』と考えていませんか。

虫歯で歯に穴が開くのは、虫歯の目に見える症状が出ているだけです。歯周病で歯茎が腫れるのは、歯周病の目に見える症状が出ているだけです。虫歯の原因の虫歯菌と、歯周病の原因の歯周病菌は常に口の中に住み続ける『口腔（こうくう）内常在菌』で、完全に取り除くことは不可能です。そのため、目に見える症状がないからといって、治ったわけではありません。

医学的に病気が治ることを『完治』といいます。これは病気が完全に消失して、再発する可能性がない状態を表します。これに対し、目に見える症状が一時的になくなって、再発する可能性がある場合は『寛解』といいます。虫歯も歯周病も管理・治療を続けないと常に症状が出る可能性があり、完治はしないのです。

虫歯も歯周病もずっと治らないとしたら、一生、歯医者に行く必要があるということでしょうか？

あります。一生通い続けられる歯科医院とよい関係を持ってください。『歯医者に行く＝（歯を削る）治療』ではありません。虫歯も歯周病も目に見える症状が落ち着いていたら、症状が出ない状態を維持するために『口腔ケア』を行います。自分ではきれいにできないところや、自分では落とせない汚れ（細菌）を取り除きます。

イギリスでは公的に指標が示されており、虫歯・歯周病のリスクがほとんどない人でも3カ月～2年の間隔での通院を推奨しています。18歳以下であれば3カ月～1年です。もちろん、リスクが高い人の間隔はより短くなります。まれに、虫歯・歯周病リスクが低く、全く問題ない人もいますが、それでも最低1年に1度は歯科医院に行きましょう。人間ドックや会社の検診も年に一度受けますよね。それと同じように考えてもらえばよいと思います。

歯とお口にまつわる歴史

デニタルヒストリア

外国人にとって不思議な習慣に見えた“お歯黒”

お歯黒の起源は古く、奈良時代に朝鮮半島から伝わり、平安時代には貴族階級から広がっていったそうです。歯を染めることは化粧の一種で、**成人**や**既婚者**であることを現していました。そんなお歯黒は、**幕末から明治初期に**来日した**外国人**の目には、**もの珍しく不思議な習慣**と映っていたようです。記録には、「お歯黒さえなければ、日本の女性はすばらしい」「黒く染めた歯は極めて痛ましい」などといった記述が残っています。髪や目の色が黒い日本人にとって黒は身近な色であり、**粹な色**。一方、外国人には**黒は不吉なことを連想させる色**として捉えられていたようです。

